

Funehiki High School News vol.120

◆祝！「船高便り」10周年

田村市の皆さん、毎月「船高便り」をご覧いただきありがとうございます。「船高便り」も、この号で10周年を迎えました。10年もの間、「たむら市政だより」の紙面を提供していただけたのも、「船高便り」を通して、地域の皆様に本校の教育活動を理解いただき、応援いただいているからこそだと思います。

これからも、地域をリードする人材の育成を目指し、地域になくてはならない高校として、教育活動を展開していきます。

今後も、「船高便り」の内容を充実させ、船高生の頑張りをお伝えしますので、引き続きご覧のうえ、生徒たちを応援くださいますようお願い申し上げます。

船引高等学校 校長 伊豆幸男



◆「TAMU LOVE PROJECT 2017」

本校では、田村市復興応援隊と地域の方々の協力のもと、1年生と2年生を対象に「TAMU LOVE PROJECT 2017」に取り組んでいます。これは、田村市の名所や文化、地域で活躍している人たちを知り、田村市をより深く理解する総合学習です。授業では、市内で頑張っている「カッコイイ」大人の皆さんから、4回にわたって講演いただきました。宇宙からの贈り物である隕石に触れたり、絵本の魅力を広める工夫をされている方に「できない理由を考える頭脳があるなら、できる理由を考える！」と熱いメッセージをいただいたり、畜産を営む方から「命をいただくことへの感謝の気持ち」を教わったり、東京から移り住んだ方から「素晴らしい自然、美味しい空気や水、美味しい食べ物など、都会にないものがいっぱいある。」と、この地域の素晴らしさに改めて気づかされたりして、講演いただいた皆さんからの熱い思いは、しっかりと生徒に伝わりました。

地域を創っていく船高生の可能性にご期待ください。



▲命の大切さについて熱心に話を聞く生徒たち



▲「この挿絵にセリフをつけるなら？」講師からの課題に取り組みました

◆船高生とドローンの可能性

6月10日、市役所の多目的ホールで「ドローン特別講座 成果発表会ならびに平成29年度ドローン特別講座開講式」が行われました。

本田市長のあいさつ、慶應義塾大学の先生による講演の後、昨年度の特別講座を受講した生徒たちが成果発表を行いました。一般の方々の前で、空撮班は撮影した動画を放映。地域課題解決班は「サーモドローンの利用」「水質調査・生態系調査への応用」をプレゼン。生徒の作品は、本校ホームページ（下記URL）校長ブログでご覧いただけます。

特別講座開講式では、同大学の南先生から今年度の課題が提示されました。空撮班は、田村市で開催されるイベントの撮影とCM大賞への応募。地域課題解決班は、地域の方々からいただく課題への対応。レース班は、佐野日大高校との練習試合の実施です。地域の皆様、ドローンの実用性の広がりを経験する船高生の活躍を、ぜひ応援してください。



福島県立船引高等学校 Tel...0247-82-1511 Fax...0247-82-5233
HP...http://www.funehiki-h.fks.ed.jp mail...funehiki-h@fcs.ed.jp

田村に住んで



Criutina Garcia
クリスティーナ・ガルシアさん
(アメリカ合衆国
テキサス州出身)
田村市に来て2年目



7月6日 船引小学校

初めて田村に来た時の気持ちは、今でも覚えていますよ。すべてが新鮮で、心が高ぶりました。できるだけ多くのものを見て探究しようという心を決め、その機会が待ちきれないほどでした。それに、知り合った誰もが、とても親切で好意的でした。

語を教えるのが大好きです。コミュニケーションをとるために、たくさんジェスチャーを使いますが、子どもたちの反応はとてもかわいらしく、楽しく、おもしろいですよ。

その頃に見て、鮮明に記憶に残っていることがあります。大滝根川の両岸にとっても美しく咲いていた桜の花。そして、そこで食べたおにぎりで。それはとても楽しく、新しい体験の始まりでもありました。

最近のお気に入りには、さわやかな朝の時間帯に、歩いて仕事に行くこと。途中の木々の美しさに見とれていると、家族と話したり笑ったりしている子どもたちに出会います。私が笑顔で皆さんにあいさつすると、皆さんもあいさつを返してくれます。そんな時、私はこの田村に住んで、子どもたちの生活の一部、この地域の一人になるよう、神様が決めてくださったと感じています。

海を越えて 英語指導助手ペンリレー No. 50 特別編

「海を越えて」50回目到達を記念して、英語指導助手の方に、田村市に来て感じていることや田村市の印象、子どもたちに英語を教えていることなどを伺いました。特別編として、数回に分けて掲載します。

田村の第一印象

僕が約2年前に初めて田村市に来た時、なんとなく故郷に帰ったように感じました。田村に来る前は韓国の大都市に住んでいたのですが、アメリカの故郷は船引よりも小さいので、穏やかな地方の生活様式に戻ることが、僕にはとても自然に感じられたのです。滝根の「入水鍾乳洞」、田村からさほど遠くない「磐梯山」や「滝桜」など、美しく興味深い場所があることもうれしき驚きでしたね。



Colin Dunn
コリン・ダンさん
(アメリカ合衆国
ニューハンプシャー州出身)
田村市に来て3年目

でも、日本の人々はいつも親切でした。職場でも職場以外でも、とても温かく友好的で、快く僕を受け入れてくれました。田村に来たばかりの時期、僕が間違ったことをしたり、何が起きているのか分からなかったりした時は、いつも周りの人は僕を理解してくれました。そして彼らは、その状況に合った行動を学ぼうとして僕を助けてくれたのです。



7月5日 常葉小学校